地域の現状と問題

地域において対応が求められている問題として以下の状況がある。

＜孤 立 死＞　死亡後長期間発見されない孤立死者は東京23区内で2718人。その多くが男性単身者。中年実年世代の孤立死では男性が9割近くにのぼる。

⇒ **単身者の孤立の問題。（特に中年実年を含めた男性単身者）**

＜徘徊死・不明者＞　屋外を徘徊中、死亡、行方不明となった高齢者は1年間に約900人とも1400人ともいわれる。多くが認知症高齢者で発見・保護に時間がかかることが原因とみられる。

⇒ **地域の人々による発見が必要**

＜高齢者虐待の発見＞　被虐待者のうち虐待されている自覚があると思われるものは5割弱。多くが虐待されている自覚がない。

⇒ **被虐待者自ら訴えることがないため、周囲による発見が必要**

＜児童虐待の発見＞　児童相談所における相談者は増加の一途（H8年度4,102⇒H18年度37,343件）。虐待が行われた家族の特徴として、賃貸の集合住宅居住が多く、「経済的困難」と「親族・近隣・友人からの孤立」があることが指摘されている。

⇒ **孤立している子育て家庭の問題**

＜障害者の地域移行＞　条件が整えば、入院入所から地域生活への移行が見込まれる障害者数は6万人（H23までに、グループホーム等へ3万人、一般住宅等へ3万人）。

⇒ **地域の受け皿づくりが必要**